

通貨ペアの選び方

まず私の主な監視通貨は「ドル・円・ユーロ・ポンド」、それから「ゴールド」です。

まず「ポンド」や「ユーロ」でエントリーするとき、その相手通貨は米ドル、または日本円になります。

これで「ポンドドル (GBP/USD)」「ポンド円 (GBP/JPY)」「ユーロドル (EUR/USD)」「ユーロ円 (EUR/JPY)」という4つの通貨ペアができあがります。

主にエントリーするのはこの4つのうちのどれかですが、これらに動きがなく、エントリーできないときは、まれに「オージードル」を見ることもあります。

この「オージードル」であれば、相手通貨は「ポンド」か「ユーロ」です。

これで「ポンドオージー (GBP/AUD)」「ユーロオージー (EUR/AUD)」というペアの出来上がりです。

最後に「ゴールド」の場合は対米ドルですので、ドルが下がっているとゴールドは上がり、ドルが上がるとゴールドは下がるという傾向があるため、ドルインデックスのチャートをいつも参照しています。

つまり、トレード対象は「ポンドドル」「ポンド円」「ユーロドル」「ユーロ円」を中心とし、ときどき「ポンドオジ」「ユーロオジ」、それから「ゴールド」の全部で7種類となります。

そして、この他に常時監視通貨ペアがあります。

それが「ドル円 (USD/JPY)」「ユーロポンド (EUR/GBP)」です。

このドル円は最近ボラが大きいのでトレードすることは可能ですし、2022年の秋現在、とってもわかりやすい上昇が続いているので、トレード対象になるのですが、数年前は一日に40 pipsしか動かないなどということがあったものですから、ついつい私はドル円以外の通貨ペアでトレードしてしまっています。

「ユーロポン」はどちらが強いかをみるためだけに表示させています。

ボラティリティがあまりないため、エントリー対象にはしていません。

エントリー対象（条件）として私が好むのはやはりボラの大きさです。

この原稿を書いているのは土曜日ですが、その前日の、それぞれの通貨ペアの1日のボラティリティは

GBP/USD → 2 1 4 pips
GBP/JPY → 2 1 9 pips
EUR/USD → 1 0 2 pips
EUR/JPY → 1 3 7 pips
GBP/AUD → 2 4 8 pips
EUR/AUD → 2 5 4 pips
GOLD → 3 1 6 pips
USD/JPY → 1 8 0 pips
EUR/GBP → 1 0 2 pips

これは2022年の秋なのですが、この日はいつになく、どれも大きく動いていますね。

こうして見ると「ユーロドル」のボラが小さいことがわかります。

考えてみると当然ですね。

世界の二大通貨なのだから、これが毎日大きくぶれるようでは実経済で支障がでるでしょうからね。

2022年の秋はこうのように全体的にボラが大きいのですが、1年前はつぎのようなボラでした。

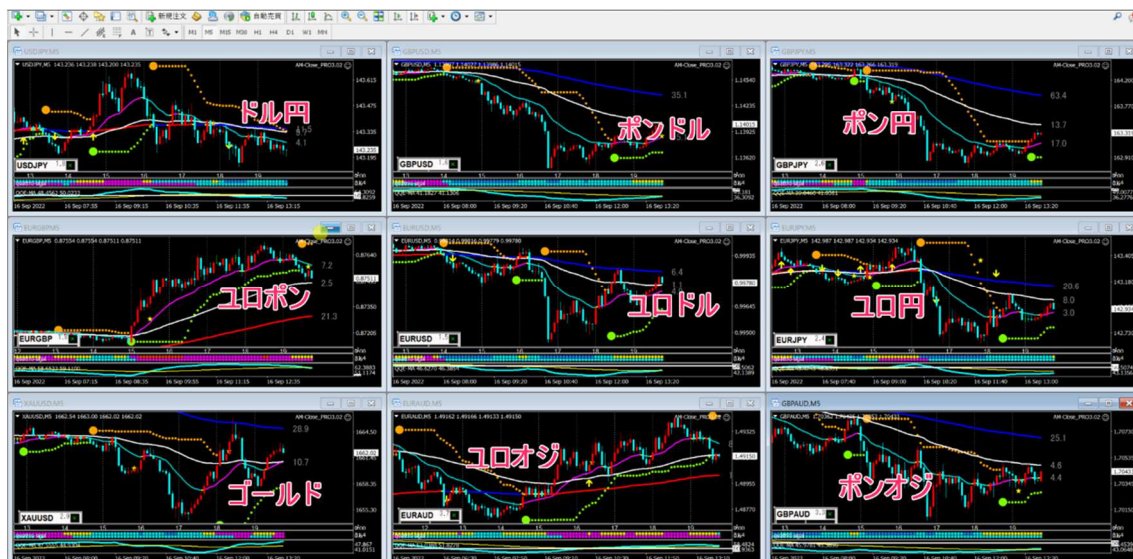
USD/JPY → 5 6 pips
EUR/GBP → 3 0 pips
EUR/USD → 4 6 pips

この3つの平均は4 4 pipsです。

たとえば、1日に2 0 pipsの利益を出したいとすると、大きく2 0 0 pips上下に動いているうちの2 0 pipsだけを相場からいただければいいので、決してできないことはありませんが、4 4 pipsしか動かない中で「2 0 pips」とるのは至難の業なのです。

私は9通貨ペアを主にトレード対象として監視していますが、その他にはマルチモニターでオジドルやオジ円、あるいはドルインデックスなども表示させています。

トレード対象の9通貨ペアは少し大きめのモニターに次のように表示させています。



ある日の通貨ペアの選び方。

私の主なトレード通貨は「ポンド」「ユーロ」ですが、これに何を組み合わせるかということからまず入ります。

そのとき、最初にユーロポンドを見ます。

チャートは次のようになっていました。



日本時間夜中の12時近くで、この日はアメリカの指標発表があって、いろんな通貨が大きく動いたあとでした。

このユーロポンドでは、夜11時以降はあきらかにユーロが強いと分かります。
となると、弱いほうのポンドのショートを考えます。

そこで、ポンド円をショートするか、ポンドドルをショートするかを決めるために、ドル円のチャートをみます。

すると、このときのチャートはつぎのようになっていました。



ひたすらドルが下落しています。

強いのは円。

そこで私のエントリー通貨が決まります。

まずポンドの売り（ショート）、相手は強い円。

ポンドが弱いところに、やっぱり弱いドルをぶつけても、これはいい勝負になるだけであって、ポンドがコテンパンにやられて下落するということにはなりません。

相手が強いからこそ、ポンドがぼこぼこにやられるのです。

そこで「ポンド円」のショートと決まります。

そのときのチャートが次です。



うわあ！ ここからは売れません。下がりすぎです。

残念ながら、ちょっと見たのが遅くて、手をだせない状態になっていました。

しかし、ここで理解してほしいのは、通貨ペアの選び方はこのようにするということです。

このときの、ポンドドルは次のようになっていました。



ポンド円にくらべて、このポンドドルはあまり下落していません。

ポンド円が、どんどん直近の新安値をつけて下がっているのにたいして、ポンドドルはようやく直近の安値に並んだところですよ。

ここで気を付けるべきは、だったらこのまだあまり動いていないポンドドルをショートしようと思わないことです。

クラスでいちばんかわいい子は彼氏がいそうだからということで、2番手でいいやと思うのではなく、やはり徹底的にクラスでいちばんのポンド円を狙いましょう。